

令和3年度 第3回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA部会 議事要旨

日 時：令和3年12月16日（木） 16:00～17:30

場 所：WEB会議

構 成 員：17名

出 席 者：12名

朝倉義崇(中部病院血液・腫瘍内科)、大城一郁(南部医療センター・こども医療センター血液・腫瘍内科)、佐久川夏実(南部医療センター・こども医療センターCL S)、城間敏生(沖縄県教育庁保健体育課)、玉城学(代理 友寄英一郎 沖縄県教育庁県立学校教育課)、新屋敷誠(森川特別支援学校)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、伊波善之(沖縄県保健医療部健康長寿課)、百名伸之(琉大病院小児科)、銘苺桂子(琉大病院産婦人科)、當山美奈子(琉大病院看護部)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠 席：5名

伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センターCL S)、比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、浜田聡(琉大病院小児科)、當銘保則(琉大病院整形外科)、森島聡子(琉大病院第二内科)、

陪 席 者：3名

奥間あさみ(沖縄県教育庁保健体育課)

有賀 拓郎(琉大病院 診療情報管理センター)

石川 千穂(琉大病院 がんセンター事務)

【報告事項】

1. 令和3年度 第2回小児・AYA部会 議事要旨(8月19日)
百名委員より、資料1に基づき説明があり、承認された。
2. 小児・AYA部会 委員一覧
百名委員より資料2に基づき、委員について報告された。
3. 「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG 委員一覧
銘苺委員より、友愛医療センター産婦人科より委員が加わった旨説明があった。
4. 沖縄県共通の妊孕性温存の説明文書と「がんと生殖カウンセリングシート」の周知状況について
銘苺委員より、資料4に基づき、他院での周知状況が報告された。
5. 沖縄県内の各医療機関での研修会について
銘苺委員より、資料5に基づき、県内で開催された研修会の状況について報告された。

宮古病院での直接開催を調整中。小児がんカンファでは数年前に開催して頂いたが、時間が経過しているという理由で、百名委員より改めて開催を依頼された。

6. 「妊孕性温存療法」に対する医療補助について
伊波委員より、以下のように報告された。

- ・妊孕性温存治療の助成実績は、現時点で2件（卵子凍結1件、胚凍結1件）。
- ・予め、琉大病院から確認していた凍結実績を下回っている。
- ・申請の動きはやや鈍い状況にある。
- ・申込み期限は、原則年度内ですので、周知方法について改めて検討したい。

【協議事項】

1. ロジックモデルと今年度の部会活動計画について

時間の都合で、他協議事項が優先で協議された。次回以降改めて協議される。

2. 「沖縄がんと生殖医療ネットワーク」について

友愛医療センターが、助成金を受けるためにがんと生殖医療ネットワークに加わることを希望している旨、銘苅委員より説明があり、同院産婦人科よりネットワークに加わる事が承認された。

3. 今後の妊孕性温存療法 WG の在り方について

妊孕性温存療法の啓発と病院同士の連携のために今後も継続されることが承認された。患者さんがより利用しやすくなるようにオンライン診療について、また連携シートの改訂について等を協議する予定。

4. 妊孕性温存療法に関するオンライン診療について

詳細については銘苅委員と有賀先生とで相談しているところで、ある程度形になった際に改めて報告される。

5. 沖縄小児がん相談支援マニュアルの改訂について

百名委員より、2014年第1版作成から7年経過している同マニュアルについて、社会保障制度や担当部署の変更等を理由として改訂の提案があった。小児・AYA部会で改訂のためのWGを構成して改訂を進めることが承認された。

6. 小児がん保護者向けマニュアルの作成について

増田委員より提案があった。百名委員より、内容としては、保護者が必要な情報が相談員向けマニュアルからの抜粋された形で作成するイメージなのではないかと発言があり、相談員向けマニュアルの改訂と同時に進めることが承認された。

7. AYA 世代のがんの詳細なデータの登録について
8. AYA 世代のがんの中で横紋筋肉腫、骨肉腫、Ewing 肉腫等のいわゆる小児がんの罹患の分析について
9. AYA 世代の就学について
10. AYA 世代の就労支援について
11. AYA 世代のがんの長期フォローアップについて

九州大学病院が小児がん拠点病院であるが、琉大病院はその連携病院となっている。上記協議事項 7～11 については小児がん QI 調査対象項目にもなっているが、がん種によっては小児科が把握できていない患者データの収集をはじめ、課題が多いため、資料 8 のように百名委員より AYA 世代のがんに関して課題提起され、委員へ意見がもとめられた。がん登録やがん種ごとの分析、就学・就労等包括的なフォローについてということで、すぐに解決できる内容ではないが、今後、皆さんの意見を伺いながら、ベースづくりを進めればとのことだった。

各議題について、委員からの提案や挙げられた課題等は以下の通り。

協議事項 7：

陪席の有賀先生より、例えば単にデータ収集だけを行いたいのであれば、該当科はそんなに多くないと思うので、小児・AYA 世代向けの共通テンプレートを作成し、医局会等に告知する等の対応で間に合いそうだが、精神的な部分や就労など包括的な介入となるのであれば、マニュアル作成等、もう一步踏み込んだ取り組みが必要になるのではないかと。

協議事項 8：

朝倉委員より、院内がん登録のデータから引っ張ってくるだけでは足りないかの確認があり、百名委員より小児血液がん学会での登録では、治療、反応性、予後やステージ等詳細について記入することになっていることや QI 調査でも、紹介されたのか、転院があったか等、主治医でないと記入出来ない内容となっているので、調査の度に調べるよりも専用のプラットフォームがあればそこからデータがだせるのではないかと提案があった。現実的には、プラットフォームがあっても、そこに記録することや、登録に対する同意を取るなど、対応にマンパワーが足りないことが課題となるので、例えば医師ではなく CRC を派遣し対応してもらうなどは考えられる方法かもしれないとのこと。他には、労力的にも臨床的な意義からも、AYA 世代の全てを対象にするのではなく、典型的な小児がん種に絞ってデータ収集、調査を行う等の対応案があげられた。

協議事項 9：

朝倉委員より、高校生患者さんを診療するときが一番困るのが就学のことなので、人員の問題もあるかもしれないが、中部病院の方でも高等部の院内学級の対応をしていただけないだろうかという提案があった。新屋敷委員より、現在はこども医療センターと琉大を中心に院内学級が設置されており、学校の規模に応じて職員を配置しているため中部病院へは琉大病

院配属の職員が出張して対応しており、専門科ごとのフォローも難しい現状が説明された。遠隔授業も活用しながらできる限りフォローしていればとの回答だった。

協議事項 10：

例えば、小児科から内科に移った後も MSW は関わり続けることで、支援が継続できないか。(朝倉委員)

協議事項 11：

治療後の長期的な発がんや生活習慣病の発症等に関しては、LTFU の仕組みを利用し、一般的な健診等であれば看護師レベルで対応できないか。(朝倉委員)

12. AYA 世代への情報提供チラシの作成について

増田委員より提案があった。詳細については小児がん相談マニュアルの改訂の際に、構成員から意見を求めることが承認された。

13. がん・生殖医療連携シートの改訂について

銘苅委員より、提案理由として以下が説明され、改訂が承認された。

- ①妊孕性温存療法の助成を受けるための条件として、JOFR(日本がん・生殖医療学会)が行っているがん患者さんの情報登録、臨床研究協力同意が必要である。その登録のための項目をシートに追加する。
- ②主治医の負担を減らすために可能な個所をチェック方式にする。

朝倉委員より、紹介状とカウンセリングシート両方を作成するのではなく、同じ内容を紹介状に記載する対応でも良いかという確認があった。医師の負担軽減のための案として、紹介状を頂いた後、電話等でも確認・相談をし、やはり凍結が必要になった際には改めて FAX でカウンセリングシートを頂くという方法が提案された。この件は妊孕性温存療法 WG の中でも協議されることとなった。

14. 次回開催日程について

第4回部会は3月開催予定。後日事務局より日程調整依頼することとなった。